

工業部会 通信

(発行) かながわ経済新聞合同会社
252-0239
相模原市中央区中央3-12-3
商工部会館本館1階
※印刷のご自由にお読みください。



世界に挑む締結部品 ミズキ社長が講演、経験語る



講演する水木社長

工業部会GETプロジェクトは3月23日、市立産業会館でオンライン(Zoomウェビナー)と併用した経営セミナー「神奈川県から世界に挑むものづくり」を開催した。講師には、グローバル市場で活躍する綾瀬市の締結部品メーカー、ミズキの水木太一社長を招いた。工業部会会員など計30人が参加した。

同社は「世界に通用する部品メーカー」をコンセプトに掲げ、世界最高レベルの品質とサービスを武器に日本のものづくりの可能性を追求。成長を続ける。大きく変化する時代の中で、水木社長は経験談や同社の経営戦略などを披露。中小製造業が今後取るべき方策について話した。

タイホーの土井さん

卓越技能者に選定



極めて優れた技能を持ち、県内でその道の第一人者とされる技能者を表彰する県の「卓越技能者」に、看板制作、タイホー(中央区田島)のデザイナー課課長の土井真由美さんが選ばれた。「広告美術工」の分野。土井さんはパソコンを活用した看板デザイン制作を得意とし、技能グランプリにも積極的に参加

で、「ものづくりマイスター」として、子どもたちにもものづくりの楽しさを伝えていく。こうした点などが評価された。この道30年近く。もとは都内の専門学校でグラフィックデザインを学んだ。たまたま同社の求人を知り、「デザインに近い仕事だと感じた」と入社したのがきっかけ。普段、街で目にする看板は、今でこそパソコンや専用装置を駆使して制作する。しかし、入社当時は「アナログ」が主流。元のデザインを看板サイズに拡大コピーし、それをカッティングシートに貼り、文字やイラストをカッターによる手作業で切り取る細かい工程が不可欠だった。

丸みを帯びた文字、角張った文字、複雑なロゴマーク。多種多様な形状をカッターで切り取り、元のデザインと同じような看板に仕上げるには技術が求められた。「小さい頃からものづくりが好きでした」と言う土井さんは、入社後にひたすら腕を磨き続けた。現在、国家資格「広告美術仕上げ技能士」の1級(粘着シート仕上げ、ペイント仕上げ)も持っており、これまで手掛けた看板は数千に及ぶ。中には、誰もが一度は目にするような有名学習塾の看板も。

工業副部会長 コラム 経営者の「考え方」



今回は、経営者にとっての「おカネの考え方」についてお話しします。経営と言えは「おカネ」です。当たり前の話を改めて基本からします。おカネは毎月消えるものと考えてください。損益計算書上は黒字で利益が出ている、現金が貯まるとは、売掛金と買掛金の差額、設備投資の支

払い済みで償却できてない金額、回収ができてない投資金額、材料在庫、製品在庫。これらは寝ているおカネです。企業は銀行融資からの借金で穴埋めしています。この部分の借金は健全なもので大丈夫です。ただし利息の支払いがあります。1年に1回は決算がありますから、法人税もかかります。会社を全部おカネに換算し、増えた部分に対し

法人税率がかかってくるから、上記の寝ているおカネにも税金がかかる」となりませぬ。この解決策は「キャッシュフロー経営」です。貸借対照表・損益計算書・キャッシュフロー表の3表はスマホやパソコン、紙など、媒体は問いませんが肌身離さずお持ちください。経営者の羅針盤です。この羅針盤なしに航海(経営)はできません。

一方、経営の舵取りをする中で、水木社長は地元自治体や産業支援機関、補助金などの重要性も強調した。また、マスメディアなども活用したブランディング戦略などについても触れていた。

売上げや利益計画がなければ、キャッシュフロー表はできません。キャッシュフロー表の毎月の確度が高いということは、経営計画がしっかりと行っていることになりませぬ。次に社員の定着率についてです。社員は「辞めるもの」だと考えてください。「この先もずっと在籍するもの」と考えていると、辞表を出されるのと気持ちが変わります。経営者の考え方は上下左右斜めから見る力で発揮できます。

重要な「キャッシュフロー経営」

（湘南デザインCEO / 公認心理師・松岡康彦）



さあ、5年後の未来を見に行こう。

新規会員募集中 近未来技術研究会

相模原商工会議所工業部会